

やってみる(挑戦)

～わくわく登校 納得の下校～

◎1・2年生で『清里小 子どもまつり』を開催

11月28日(木)に1・2年生が企画した『清里小 子どもまつり』が開催されました。

秋にとれるどんぐりの実などを使っての冠や景品づくりを行い、招待していた保護者や清里保育園の園児を喜ばせるためのお店舗を1年生が【わくわくどきどきおさかなつりやさん】など4店舗、2年生が【あおげ:ヨットカー】など4店舗、合計8店舗を体育館に準備しました。

開閉会行事ももちろん1・2年生がお店紹介や感想発表まで全て行いました。

それぞれのお店で工夫が施されており、清里保育園の園児も大はしゃぎでした。保護者の方にも高評価をいただきました。

大成功の『清里小 子どもまつり』となりました。



開会式の様子



さかなつりを楽しむ児童と園児

◎荒尾市人権フェスタについて

12月7日(土)には、荒尾市人権フェスタの映像を体育館で視聴しました。授業参観ということもあり、保護者の方にも視聴していただき、荒尾第一小学校、桜山小学校の発表を視聴しました。

また、10月に本校に来ていただいたパリパラリンピック車椅子ラグビー金メダル選手の乗松聖矢さんの来校時の映像も放映しました。(12月10日(火)に県民栄誉賞を受賞されました)

◎初めての海苔すき体験

12月12日(木)には、本校4・5・6年生が『のりすき体験』を行いました。この体験活動ですが、本校で行われるのは5年ぶりです。

まず、最初に組合長から、海苔ができるまでの行程の説明や動画を視聴しました。1日に漁協で生産される海苔の量は、50年前は1日500枚から1,000枚だったのが、機械化により、今では1時間に8千枚、1日に20万枚もの生産ができるようになったそうです。それでも海苔の生産者の減少で、生産量は、毎年減っているそうです。また、海苔の漁場①沖合で行う【浮き流し漁場】と②沿岸で行う【支柱漁場】の2通りあり、海苔の質が違うそうです。

次に、子供たちは、海苔すき体験に挑戦しました。初めて体験した子ばかりで1枚目は、おぼつかない様子で海苔を『まきす』に落とし、水を切って乾かす作業まで行いました。一人3枚自分で体験しました。3枚目は、くまモンやクワガタ虫などの型枠に海苔を流し込みオリジナルの海苔を作って楽しみました。12月16日(月)に干した海苔が乾くと完成です。楽しみですね。

郷土の産業に触れることができた貴重な体験となりました。

漁協の方々、地域の区長様など多くのご協力をいただきました。大変ありがとうございました。



海苔すき体験をする子供たち



乾かす作業の様子